情報提供資料
発行日:2024年3月13日

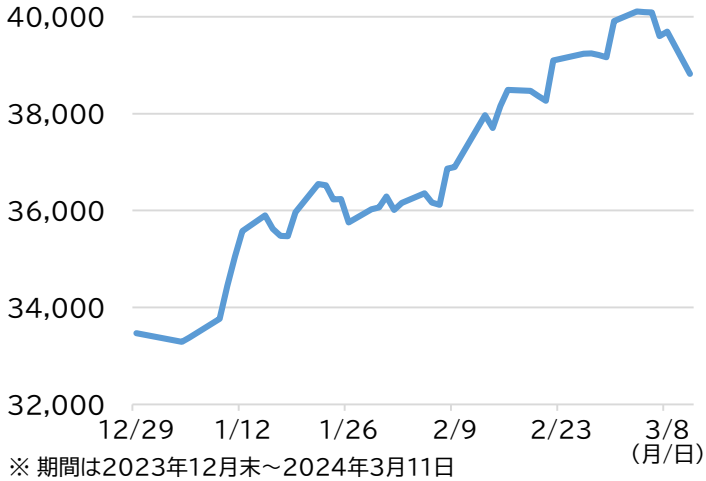
いちよしアセットマネジメント

■節目の4万円を突破後、調整が続く日経平均株価

日経平均株価は4日に節目となる4万円を突破した後、利益確定売りが重なり調整が続く展開となっています(図表①)。米ハイテク株安や日銀による金融正常化観測の高まり、為替市場における円高の進行が背景にあります。

11日には、一時1,100円を超す大幅下落に見舞われました。前週末に発表された2月の米雇用統計がインフレ鈍化を示す内容であったことから米長期金利が低下し、日米金利差の縮小に伴う円高の進行が嫌気されたことで、外需株中心に売りが出た格好です(図表②)。

図表①:日経平均株価の推移



※ 期間は2023年12月末～2024年3月11日
(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

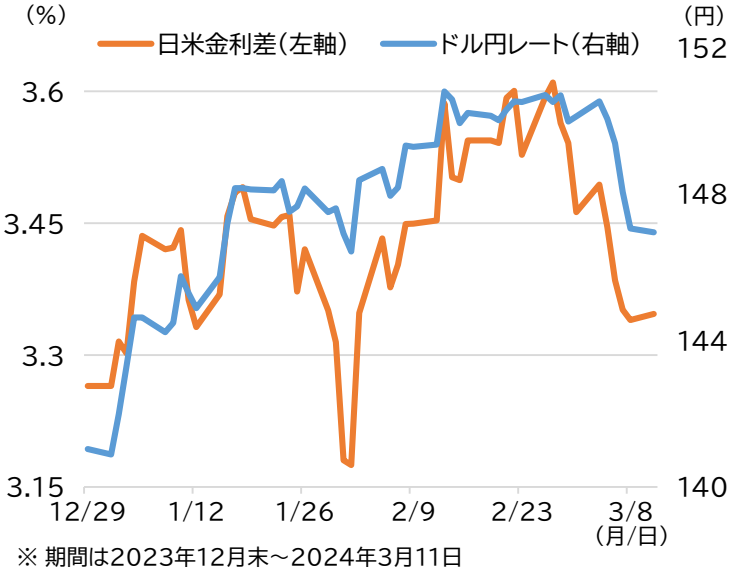
■日米金融政策をにらみ神経質な展開が予想される

株安の一因となっている日米の金融政策を巡っては、18～19日に開催される日銀の金融政策決定会合、19～20日開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)の内容に注目が集まります。

FOMCでは利下げの見送りが大方の予想となっている一方、日銀会合ではマイナス金利を解除するとの見方が足元で増えつつあります。直近、日銀の審議委員から2%の物価目標達成に向け、前向きな発言が相次いでいることがその理由です。

これまで日本株買いを主導してきた海外投資家は、金融政策に敏感であるため、日銀会合を通過するまでは様子見姿勢を強めるものと思われます。ただ、仮に3月会合にてマイナス金利解除に踏み切ったとしても、日銀は引続き緩和的な金融環境が続くとの見方を繰返し示していることから、大きな動揺には至らないと考えています。

図表②:日米金利差とドル円レートの推移



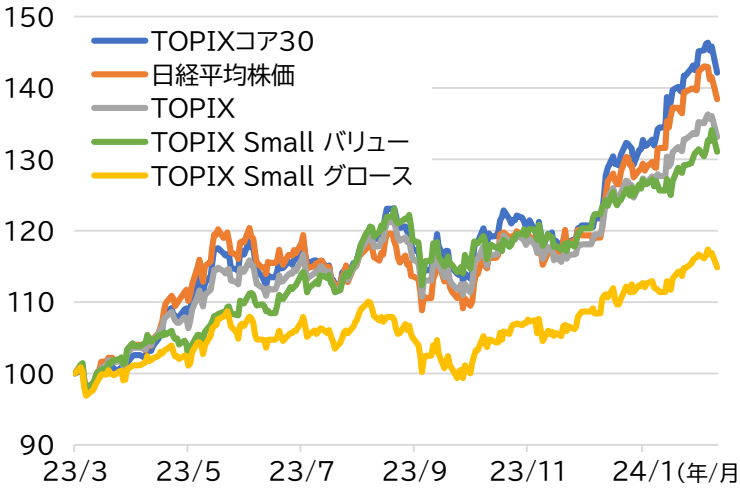
※ 期間は2023年12月末～2024年3月11日
(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

■投資妙味のある小型グロース株

これまで日本株をけん引してきた主力の外需・半導体関連銘柄を中心に相場全体が調整する中、中小型株は依然として割安な水準にあり、上値余地は大きいと言えます(図表③)。

過去の海外投資家による日本株の買い越し局面では、主力大型株の上昇が一服した後、物色が横に広がり相対的に出遅れていた中小型株の上昇へと至りました。今回の上昇相場においても同様の展開が想定されることから、今後中小型株(特に小型グロース株)の水準訂正が期待されます。

図表③:国内主要株価指数の推移



※ 期間は2023年3月末～2024年3月11日、2023年3月末を100として指数化
(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

ICHIYOSHI ASSET MANAGEMENT CO., LTD.

◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。